

# APAQG成都会議について

## 1. はじめに

2015年4月18日～19日に中国四川省の成都市にて、APAQG (Asia-Pacific Aerospace Quality Group) 成都会議が開催された。以下に今回の会議について報告する。

## 2. 会議の概要

(1) 今回のAPAQG成都会議には、アジア太平洋地域の航空宇宙関係18組織から約40名が参加した。引き続き4月20日から開催されるIAQG成都会議に向けて、9100規格<sup>(\*)</sup>改正などの情報共有やAPAQGの意見集約を実施した。

(2) 会議では、JAQG独自活動の「強固な品質マネジメントシステム構築の検討」の最新状況につき報告した。その成果（追加のガイダンス文書（後述））については、IAQGへ提案することが確認された。

(3) 2015年3月に上海で開催したAPAQG 9100改正検討チーム会議結果を報告すると共に、9100規格改正状況の情報共有を図り、9100改正に向け、APAQGの意見集約を図ることができた。

APAQG成都会議の参加国、参加組織は以下の通りである。

日本：MHI、KHI、FHI、IHI、NEC、HIREC、SJAC

中国：AVIC(会議のホスト会社)、COMAC、Boeing Tianjin Composite、Harbin Embraer、China Astronautics Standards Institute (CASI)

韓国：KAI、KAL-ASD

シンガポール：Liebherr-Singapore、Rolls Royce、P&W

フィリピン：Subramanya氏（新規APAQG個人会員、Moog Controls Corporation Philippine Branch）

台湾、インドネシア：不参加

\*1) 9100規格：品質マネジメントシステム－航空、宇宙及び防衛分野の組織に対する要求事項

## 3. 会議内容

### (1) 評議会

#### (a) 主要な審議結果

評議会での主要な審議結果は以下の通りである。

- ・前回開催のAPAQG台中会議議事録が承認された。
- ・JAQGより「強固な品質マネジメントシステム構築の検討」の最新状況につき報告し、以下の追加の2つのガイダンス文書（英語版）につき、IAQGに提案することが確認された。
  - －作業移管の管理
  - －リスクマネジメントを含んだ設計・開発の進め方
- ・フィリピンのMoog Controls Corporation Philippine BranchのSubramanya氏がAPAQG準会員（個人会員）として承認された。
- ・APAQGの会計報告に関し、2014年決算案が承認された。また、繰越金の用途については、今後、APAQGメンバーの意見を集約して協議・決定することになった。
- ・2016年のIAQGシンガポール会議開催日について、2月から4月に変更するこ

とが確認された。

- ・ 2015年秋のAPAQG韓国会議開催日が、9月17-18日に確定した。(ホスト会社：KAL-ASD)

(b) 各国のステータス報告

評議会での各国のステータス報告は以下の通りである。

日本：JAQG幹事長（小出 芳夫氏（IHI））



評議会の様子（全体）



評議会の様子（日本の活動報告：小出 芳夫氏（JAQG幹事長、IHI））

より、JAQG活動状況が報告された。

中国：CAQG（China Aerospace Quality Group）の活動状況が報告された。CAQGは正会員11社、一般会員53社で構成されている（前回報告から会員増加なし）。正会員が中心となって活動を展開しており、IAQG/APAQG会議に対応して年2回（春/秋）CAQG会議を開催している。2015年春からCAQGのリーダーがXu Jianqiang氏（COMAC）となった。（今後、AVICとCOMACが2年ずつ交互にリーダーを務める。）従来の4つのWG（規格要求、要員能力、SCMH、パフォーマンス）に加え、Nadcap WGが組織され、審査基準の中国語への翻訳を進めている。規格要求に関しては、新たに2規格（9102, 9114）の中国語への翻訳を実施。SCMHに

関しては、中国国内の展開のため、中国語への翻訳を進めている（55%が翻訳完了）。

韓国：自国企業の認証は、主にAS9100/9110/9120によっており、韓国のAS9100認証取得会社は246社（半年で14社増加）、また、AS9110とAS9120認証取得会社はそれぞれ16社（半年で5社増加）、2社となっていることが報告された。

シンガポール：シンガポール国内の認証状況は、AS9100認証取得会社は100社（半年で2社増加）、AS9110とAS9120認証取得会社はそれぞれ16社、32社（半年で2社増加）となっている。SAQG（Singapore Aerospace Quality Group）が設立され、2015年4月2日に第1回SAQG会議が開催されたことが報告された。（SAQG会議は



評議会後の集合写真（APAQGメンバー）

前列右から7人目：小出 芳夫氏（JAQG幹事長、IHI）

前列右から5人目：寺境 弘之氏（APセクターリーダー、MHI）



今後、年4回開催予定)また、FAAとCAAS(シンガポール航空局)のMRO分野の協働の動きが報告された。

(c) その他のトピックスの紹介

以下のトピックスが紹介された。

- 新規APAQGメンバー獲得のためのタイAPAQGセミナー(寺境 弘之氏(MHI))
- 強固なQMS構築のための追加のJAQGガイダンス文書(渡邊 靖氏(MHI))
- 9100改正状況&APAQG9100チームの活動状況(河本 正博氏(MHI))

(2) スペースフォーラム

成都会議では4月18日にAPAQGスペースフォーラムを開催し、日中5組織から11名が参加して、IAQGロングビーチ会議におけるスペースフォーラムおよび9100規格改正動向

を中心とした情報共有を行った。

また中国CASI(China Astronautics Standards Institute)より、中国における宇宙関連QMSについての解説があり、9001認証をベースとして、AS9100とほぼ同等の特別品質要求を付加することで、9100認証とほぼ同等の製品品質を実現しているとの説明であった。

中国ではCAQGが設立され9100規格の適用が進んでいるものの、スペースフォーラムは設置されていないため、今後も引き続きAPAQGスペースフォーラムにてアジア太平洋地区の宇宙関連事業者およびステークホルダーの意見を取りあげていく。

4. おわりに

IAQGは、世界共通の航空宇宙品質マネジメントシステム規格(9100規格)を初めとする関連規格の制定に加え、“On Time, On-Quality Delivery(OTOQD)”を効率的に達成することを目標に活動を展開している。

アジア太平洋地域にIAQG活動を広めかつ



会議後の集合写真(スペースフォーラム)  
前列右から3人目:柳川 祐輝氏(スペースフォーラムAPリーダー、MHI)

アジア太平洋地域の意見をIAQGに反映させるためには、APAQG活動を活発化させ、多くのアジア太平洋地域のメンバーが継続的にAPAQG会議並びにIAQG会議に参加することが重要である。中国でのCAQG設立に続き、シンガポールでもSAQGが設立され、また、新たにフィリピンがAPAQGに参加するなど

アジア各国のAPAQG/IAQG活動への関心が高まっている。

今後もJAQGは、APAQGのリーダーとしてAPAQGメンバーの拡充に努め、APAQG活動を牽引し、日本の意見をIAQGに提言する活動を推進する所存である。

〔(一社)日本航空宇宙工業会 航空宇宙品質センター 事務局 部長 菅野 義就〕